

私を育てた
あの時代、あの出会い

第16回

実践を認めてくれた恩師と出会い 価値付けける大切さを真に感じた

東京都 文京区立千駄木小学校校長 齊藤 純 SATO JUN

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、齊藤校長が語る。

自分を振り返り見つける力を
子どもに付けたい

私が教師を志したのは大学院2年生の頃、学んでいた心理学を応用すれば学習指導が更に効果的に出来るのではないかと考えたからです。

小学校教員となり、心理学を生かして行った実践の1つに、子どもが自分の学習内容を決め、毎日取り組むということをしました。調べ学習や苦手教科の克服など、子どもそれぞれに学習内容はさまざまですが、私は「ここでつまづいているね。こうすればもっと良くなるよ」などの

コメントを、毎日書いて返却しました。この活動を「一粒の米」と呼び、どの学年でも行なったのです。

自分で課題を決め、その成果を振り返ることは、子どもにとって容易ではありません。しかし、子どもの将来を考えた時、心理学という「メタ認知力」、つまり自分の良さも弱さも含めて「振り返って見つける力」を身に付けることは、自分なりの価値観を持って生きていくために不可欠だと考え、取り組みを続けました。同時に、私は道徳の授業を通じて「自分を見つめる力」を付ける取り組みを行いました。しかし、当時は



さいとう・じゅん 専門教科は、道徳、生活科、総合的な学習の時間。大田区立久原小学校副校長、文京区立根津小学校校長などを経て、現職。東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会副会長なども務める。

1985 (昭和60)

新採として
渋谷区立長谷戸小学校
に赴任。道徳教育の
研究を始める

1988 (昭和63)

品川区立第一日野小学校
に赴任

1998 (平成10)

大田区立中萩中小学校
に赴任

2002 (平成14)

大田区立
入新井第一小学校
に教頭として赴任

2005 (平成17)

大田区立久原小学校に
副校長として赴任

2008 (平成20)

東京都教育庁
人事部職員課
課務担当副参事に
着任

2009 (平成21)

文京区立根津小学校に
校長として赴任



校長2年目の頃。
移動教室に
同行した時の写真

2011 (平成23)

文京区立千駄木小学校に
校長として赴任

「迷い、悩んだ時に立ち戻る 教師としての柱をつくる」



心理学を授業に生かすという意識が学校現場にほとんどなく、周囲になかなか受け入れられませんでした。

どうすればこの良さが伝わるのかと悩んでいた時に出会ったのが、当時、校長を退職されたばかりの宮本朝子先生です。先生が主宰する「新しい教育を考える会」で私の道徳教育の実践を発表する機会をいただきました。宮本先生は発表を聞き、「道徳教育について理解が非常に深まった」と褒めてくださったのです。自分

の考えが初めて評価され、とても勇気付けられました。私は思いを認めてくれる場が見付かったと、月1回の会に参加するようになったのです。

当時、私はミドルリーダーとして課題のある学校に赴任し、校長と一緒に学校の立て直しを図っていました。しかし、周囲とかみ合わず、なかなか改革は進みませんでした。そんな時に支えになったのが、宮本先生の「自分から一番遠い人を大切にする」「難しいことをやさしく表現

できることが本当の力」という言葉です。当時の私は、自分と意見の異なる人には難しい言葉で論破しようとする攻撃的な面がありました。一方、宮本先生は、「自身の考えを具体的な言葉で分かりやすく伝えていました。意見が合わない人に対しては積極的に自ら声を掛け、その人々の良さや活躍の場を見いだして、自分との関係を築いていました。」

私は宮本先生を手本に、子どもの人生を考えた時にどういう力を付けることが本当に必要なかを、毎日のように先生方と話し合いました。粘り強く議論を重ねていく中で、周囲に厳しかった自分が少しずつ変わっていく、自分が変わることで、周りの先生方との関係も良い方向に進むようになりました。宮本先生は「教育は愛」とも繰り返しおっしゃいましたが、私は他者を丸ごと受け入れ、認める大切さを改めて学んだのだと思います。

教師一人ひとりの良さを 見取り、認め、伸ばす

実は「一粒の米」には後日談があります。苦手な算数に2年間取り組んでいた子に、成人してから会う機

会がありました。その子は「課題に取り組んだおかげで中学校では勉強が楽しくなり、今は看護師として働いています。先生のことを信じて頑張ったよかったです」と言いました。私の信念が伝わっていたんだ、続けてよかったですと胸が熱くなりました。

信念を持つこと、それが認められ、具現化できる場があること——校長となった今、私が大切にしているのは、教師それぞれが持つ力や良さを見取り、その価値を伝え、力を発揮できる場をつくることです。そのために、私が率先してネットワークを広げて、先生方を学びが得られそうな研究会に連れていき、その力を伸ばしてくれそうな人に引き合わせたりしています。

迷ったり悩んだりした時に立ち戻る、自分の柱があることは重要です。それをつくるため、私は一つひとつの実践に対して「何のために行うのか」と、自分にも先生方にも常に問い掛けています。自分で振り返り考える中で、本質をつかみ、真に自分のものにできれば、きつと次の指導に生きていくでしょう。私自身も、常にそうした姿勢で教育と向き合っています。